２０２４年４月

鈴鹿市立清和小学校

研修部会

令和６年度　校内研修実施計画

Ⅰ　主題及び教科

|  |  |
| --- | --- |
| 主題 | 仲間とともにねばり強く学び続ける子ども  ～主体的・対話的で深い学びを通して～ |
| 教科・領域 | 算数科 |

Ⅱ　主題設定の理由

１　これまでの研修の経過

本校では、令和５年度から「仲間とともにねばり強く学び続ける子ども～主体的・対話的で深い学びを通して～」という主題で研修を行ってきた。教科・領域を国語科・算数科とし、教科横断的に「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した。その結果、子どもが課題解決の見通しをもつ主体的な学びの姿や、仲間の考え方と比較して類似点や相違点を見いだす対話的な学びの姿が見られた。一方、子どもがその教科ならではの面白さや良さを味わう姿は十分に見られず、深い学びについて課題が残った。

以上のことを踏まえ、今年度は主題を引き継ぎつつ、より教科の本質、特質に迫るために、教科・領域を「算数科」に絞って研修を進めていく。「数学的な見方・考え方」を働かせ、子ども自ら学びを深めていけるような力の育成を目指す。また、そのためにも、子どもが安心して学ぶことができる学級づくりや、個々の自己肯定感を高めていく取り組みを進めていきたい。

２　学習指導要領とのかかわり

算数科における「数学的な見方・考え方」については、小学校学習指導要領解説算数編では「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること」と示されている。「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え」とは、学んだことを基に見通しをもって考えることと言い換えることができる。また、「根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること」とは、既習の知識及び技能や条件を基に推し量ったことから、類似点や相違点に気付き、それらを一つのものとして捉え直したり、考える範囲を広げていくことで新たな数量や図形の性質や数学的な考え方を見いだしたりすることと言い換えることができる。

これらのことを念頭に置き、単元・題材の学習を進めていく際には、その授業でしか学ぶことができないことを意識し、授業を構成していきたい。その上で、子どもの実態に応じて「主体的・対話的で深い学び」が実現されるような手立てを工夫していきたい。

Ⅲ　研修内容及び方法

１　今年度の研修について

（１）研修構想

|  |
| --- |
| 【学校教育目標】  自ら学び、ともに考えようとする子どもの育成 |

|  |
| --- |
| 【主題】  仲間とともにねばり強く学び続ける子ども～主体的・対話的で深い学びを通して～ |

|  |
| --- |
| 【目指す子どもの姿】  ・意欲をもって自ら学習活動を進める子ども  ・仲間と関わり物事を多面的に捉える子ども  ・その教科ならではの面白さや良さを味わう子ども |

|  |
| --- |
| 【主な研修内容】   1. 主体的・対話的で深い学びを意識した算数科の授業づくり 2. 学びの基盤づくり |

（２）研修内容について

①主体的・対話的で深い学びを意識した算数科の授業づくり

　「数学的な見方・考え方」を働かせ、子ども自ら学びを深めていけるような力の育成するために、算数科の１時限の授業を「課題把握」「自力解決」「解法検討」「振り返り」の４つの場面で構成する。それぞれの場面の中で、子どもは常に数学的な見方・考え方を働かせることができると考え、以下のような数学的な見方・考え方を働かせる姿を設定する。

|  |  |
| --- | --- |
| 授業場面 | 数学的な見方・考え方を働かせる姿 |
| 課題把握 | 事象について自分の予想や感覚、既習の知識及び技能との間に生じた疑問や違和感をもち、課題を自分事として捉え、解決の見通しをもつ。 |
| 自力解決 | 課題と既習の知識及び技能を結び付けて課題解決に活用し、課題に対して自分なりの考えをもつ。 |
| 解法検討 | 自分と仲間の解や解法を比較する中で新たな問いを生み出し、解決方法を具体物や図、式を使って表現し、数量・図形の概念や性質を見いだす。 |
| 振り返り | 見いだした数量・図形の概念や性質を活用したり、解法を選択したりして、解法をより確かにし、その良さを実感する。 |

このような授業を、題材を通して繰り返し行うことで主体的・対話的で深い学びに迫り、資質・能力を育むことができると考える。

②学びの基盤づくり

・授業の始まりと終わりについて

　　授業の始まりは、チャイムと同時に日直の号令によって始業する。始業前に学習の準備を済ませておき、指導者の指示があるまでは教科書で予習をしたり、ノートで前時の振り返りをしたりして始められるようにする。授業の終わりは、チャイムと同時に日直の号令によって終業する。終業後には、授業の片付けをしたり、成果物を提出したりする。指導者の指示がなくても、子ども自らできるように、日々の指導が大切である。また、指導者も子どもも時間を意識し、授業の延長はできるだけないようにする。

　・授業中の言葉づかいについて

　　指導者は子どもが安心して学ぶことができるように意識し、適切な言葉づかい、声量を心がける。指示を明確にするため、短く端的に発する必要がある。指導者と子どもの関係性から、「～してください。」といった言葉ではなく、「～しましょう。」といった言葉が適切である。また、全ての子どもを公平に扱うという意味から、子どもによって呼称を変えず、「～さん」として統一することが望ましい。さらに、指導した学習用語を指導者が正確に使うことで、子どもに定着させていきたい。

・「めあて」と「振り返り」

　　授業のはじめには「めあて」を提示する。主体的に学習に取り組める内容になっているか、見通しが明確になっているかを意識して、指導者が子どもとともに設定する。そのためにも、その授業で付けたい力を明確にしておくことが大切である。授業の終わりには「振り返り」を行わせる。めあてに正対しているか、振り返りの視点が明確になっているかを意識して行わせる。学びの成果を実感させ、次時につなげられるようにすることが大切である。めあてや振り返りのタイミングは、授業のねらいや展開に応じて考える。

　・板書

　　めあてや課題、子どものつぶやきや考え、まとめや振り返りを黒板に書き留めていく。全ての事柄を板書すると情報量が多くなるため、端的にまた構造的に板書することが大切である。ただし、子どもの考えは正答、誤答関わらず大切であるという意味で全て板書する。また、色を使い分ける場合は、色覚の子どもに配慮する。ある程度、それぞれの内容の書く位置を決めておくと、子どもが学習内容を理解しやすくなる。授業の終わりに、ひと目で授業を振り返ることができるような板書が望ましい。

・安心して学習できる学級づくり

　　主体的・対話的で深い学びの授業を実現するために、安心して学習できる学級集団づくりが大切になってくる。そのためには、最後まで仲間の話を、関心をもって聞こうとする態度の育成、お互いの考えや思いを尊重する態度、仲間の考えから学び、自分の考えを深めていこうとする意識など、さまざまな側面を学校生活全般において育てていく必要がある。まずは指導者が手本となって示しつつ、子どもとともに学級づくりを進めていくことが大切である。人権教育推進担当と連携して、取り組んでいきたい。

Ⅳ　研修内容及び方法

１　授業研究の実施

事前検討、研究授業、事後検討を全ての教員で行う全体研と、学年部の教員で行う学年部研を行い、授業力を高める機会とする。全体研は４つ（低・中・高から少なくとも１つずつ）行い、学年部研は３つ（低・中・高から２つと特支）行う。教科は算数科とする。ただし、全体研の１つは人権とし、教科は問わない。特支も教科は問わない。

２　研修日程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学年 | 指導案執筆者 | 日程 | 単元・題材名 |
| １年生 | 田尾玲子 | 未定 | 未定 |
| ２年生 | 岡﨑楓奈 | ２月１２日 | はこの形 |
| ３年生 | 中川嵯貴 | 未定 | 未定 |
| ４年生 | 中川敬 | ９月１９日 | がい数の表し方と使い方 |
| ５年生 | 日比大介 | 未定 | 未定 |
| ６年生 | 冨田一颯 | １１月７日 | 比例と反比例 |
| 特支 | 未定 | 未定 | 未定 |

３　校内研修の内容

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 日程 | 内容（提案者） | 備考 |
| ４月１０日 | ・令和６年度校内研修実施計画について（中川敬）  ・授業研究の日程について（中川敬）  ・研究授業学習指導案の形式について（中川敬）  ・討議「主体的・対話的で深い学びの姿」（中川敬） |  |
| ４月２４日 | ・学力調査・みえスタディチェックの採点について（東）  ・鈴同協実践レポート検討（日比） |  |
| ６月２４日 | ・未定 |  |
| ７月２５日 | ・夏季研修 |  |
| ９月１１日 | ・４年生研究授業事前検討会（４年） |  |
| ９月１９日 | ・４年生研究授業事後検討会（４年） |  |
| １０月３０日 | ・６年生研究授業事前検討会（６年） |  |
| １１月　７日 | ・６年生研究授業事後検討会（６年） |  |
| １月１０日 | ・未定 |  |
| １月２４日 | ・２年生研究授業事前検討会（２年） |  |
| ２月１２日 | ・２年生研究授業事後検討会（２年）  ・研修のまとめ（中川） |  |